国際関連情報　国際会議等

萩原理事長、西川委員長他が中国会計関係機関首脳を訪問

専門研究員　下村　昌作（しもむら　しょうさく）

訪問の目的

財務会計基準機構（FASF）及び企業会計基準委員会（ASBJ）では、今後の国際財務報告基準（IFRS）の開発におけるアジア地域の意見発信力を高めていく必要性があるとの観点から、我が国同様、自国の会計基準とIFRSとのコンバージェンスを積極的に進めている中国との一層緊密な連携を図るべく中国の会計関係機関首脳を訪問した。

訪問メンバー

萩原敏孝　FASF理事長、(株)小松製作所相談役・特別顧問
藤沼亜起　FASF評議員会議長、国際財務報告基準財団（IFRS財団）Trustee
島崎憲明　FASF評議員、IFRS財団Trustee
西川郁生　ASBJ委員長
丸山顕義　ASBJ専門研究員

日程・訪問先

6月2日　中国財政部　王　軍副大臣　劉玉廷会計司長
6月2日　中国証券監督管理委員会　李　小雪紀律委員会書記
6月2日　中国公認会計士協会　刘　仲藜会長

主なやりとり

（IFRSに関する中国の状況）

中国では、2006年から原則IFRSとコンバージェンスした財政部公表の新会計基準を適用しているが、本年4月に2011年に向けて継続的・全面的にIFRSと中国基準をコンバージェンスするロードマップを公表している。

ただし、あくまでもコンバージェンスであって、IFRSをアドプションすることは現時点では考えていない。理由は、IFRSは中国の事情にも配慮し改正されてきているが、未だに中国の実情に合っていない部分があるからである。したがって、今後とも国際会計基準審議会（IASB）に対して中国の立場や慣行への配慮について意見発信していく必要があると考えている。

（国際的な会計情勢について）

2011 年から 2012 年は、IASB/米国財務会計基準審議会（FASB）の MOU が佳境を迎えると伴に、アジアの各国でコンバージェンスやアドプションが始まる非常に大事な時期である。アジア各国は、IFRS は自国の基準であるとの認識の下に、基準の高度化に向けての議論を欧米に委ねるのではなく、自らの主張を積極的に意見発信していく必要がある。そのためには、当然 IASB 側もアジアの中に拠点を早急に設けるべきである。

（日中の協力関係について）

日中の経済が緊密化するのに伴い、会計面での交流も重要になってきている。IFRS がアメリカ、ヨーロッパ、アジアの三者が歩み寄る形で形成されていくよう、アジア・オセアニア基準設定主体グループ（AOSSG）を始め、会計問題に係る様々なチャンネルを通じて日中両国は協力していく必要がある。

今回の訪問を通じ、国際会計基準としての IFRS の品質を高めていくためには、アジア・オセアニア地域の意見を IFRS の開発にこれまで以上に反映させ、当該地域のプレゼンスを高めていくことが必要であり、日中の役割は非常に重要なものであること、このような交流を継続していくことが大事であることが確認された。